

本書の使い方



(1) キャリア形成の機会

仕事の経験を通して、社会人としてさまざまな成長を遂げていくことになります。与えられる機会を得ただけではなく、「目指す自分」を目標として設定した上で、積極的なチャレンジをすることが非常に大切です。

まず、実際に与えられた仕事をしながら上司や先輩から指導を受けたり、失敗から学ぶというもので、企業内教育手法の一つとして定着しているOJT (On The Job Training) と呼ばれるものです。これは、意図的・計画的・継続的に業務処理能力などを育成するためのものです。そしてもう一つは、OBDT (Off The Job Training) で、日常の業務からは離れて研修会や講習会に参加することによって、知識を高めたり意識を向上させるというものです。いずれも会社側から与えられる人材育成のための機会ですが、キャリア形成には不可欠なものです。

しかし、このように与えられる機会だけで満足するのではなく、日頃から「目指す自分」「ありたい自分」を目標として設定することが重要となります。自ら設定した目標に到達したいという思いは、主体性の発揮につながることで成長を加速させるための大きな力となるからです。興味関心のある社外セミナーやイベントに参加する、通信教育や書籍から新たな知識を獲得する、資格取得に向けた取り組みをするなど、積極的な行動で自ら機会を作り出していくことにより、キャリア形成の機会は大きく広げることが可能となります。

(2) 変化による成長

キャリアを形成していくものには、意図しない環境変化によるものも多くあります。特定の分野に関する知識を得たり、課題だと感じていた能力を高めたなど意識していなかったにもかかわらず、後から振り返るとたまたまある変化に遭遇したために獲得できたことがあるということです。

例えば、人事異動で所属部署が変わることになった場合、担当業務が変わり、仕事をするために必要な知識やスキルを新たに身に付けなければなりません。上司や同僚も変わるため、人間関係を構築する必要性もあります。さらに勤務地の変更を行う場合は、生活拠点も変わるため、その地域に溶け込む努力や地域性に合わせた生活を送る中で新しい人脈が作られるということにもなります。

予期していなかった環境の変化に対応することで、新たな知識やスキルの獲得、対人対応力や変化適応力の向上などにつながることも可能となります。一つのこと集中して取り組んだ結果、専門性を高めていくというキャリア形成の仕方のもう一つ重要な手法ですが、「計画された偶発性」[※]というキャリアに関する理論もあるように、予期せぬ出来事や突発的なことをチャンスととらえることもキャリアを形成していく上で大変重要なことです。与えられる機会、自ら作り出す機会、偶発的な機会から多くのことを学び取ることができるのです。失敗することを恐れず、失敗から学ぶことを重視し、試行錯誤を繰り返すうちに成長を遂げることができると知っておくことが大切です。より多くの経験から変化につながる機会を得ることが、社会人として成長するためには非常に重要です。

用語解説

※ 1 計画された偶発性 (Planned Happenstance)----

アメリカで教育学・心理学を研究するクランボレンが提唱している理論で、「個人のキャリアは全く予期していなかった偶発的な出来事によって形成されている」というもの。「たまたま」や「偶然」に出会う機会を導きながら、キャリアを形成していくためには、以下の五つのポイントが大切であるとしている。

- ①好奇心
興味関心が低いことにもアプローチをして、学ぶ機会や何かが得たり感じたりする機会を作る。
- ②持続性
安易にあきらめたり、投げ出してしまおうとしないように一定期間はやり続ける。
- ③柔軟性
状況や環境に変化が起きた場合は、優先順位を見直し、うまくいかないことにこだわらずに持ち続ける。
- ④突発性
想定外や突発的な出来事は、新しいことを学ぶチャンスだと受け止めてみる。
- ⑤リスクテイク
結果が見えていない場合でもチャレンジしてみる。失敗から学ぶことがあり、チャレンジしなれば何も得られない。

- 1.....章
- 2.....テーマ
- 3.....検定の級レベル
- 4.....節
- 5.....項
- 6.....＜ Point ＞ 項で学ぶ内容を簡潔にまとめています
- 7.....編
- 8.....＜用語解説＞ 本文にある用語のうち、アスタリスク (※) の付いているものには節の終わりに解説があります

< CASE STUDY (ケーススタディ) >

社会人に求められる対応は状況に合わせて変わります。どのような振る舞いや言葉遣いがもっともふさわしいか、ケーススタディのページで具体的な事例を元に考えてみましょう。